

様式3 まとめ(自己評価および学校関係者評価)

坂戸市学校評価システム

## 令和4年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立片柳小学校
実施日	令和5年2月

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営ビジョンも、よく、職員に示され、実践されている。</li> <li>・校外学習・学校行事などの提案時に十分な検討がなされていないことがあったので、計画的に進めていく。</li> <li>・今年度、コロナ禍のために感染対策や児童の健康・命を第一として、行事等を縮小・変更することがあった。来年度は「子どもたちの活動確保・感染対策・職員の働き方」の3つのバランスがより取れた教育活動の展開を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側の発信の努力は十分であると思うが、コロナ禍において参観・見学が少ないため、保護者に理解が届いていない。</li> <li>・新型感染コロナウイルスの感染防止対策中での特色ある学校づくり、行事等の実施に努力がみられた。</li> <li>・来年度以降、行事の復活と教職員の働き方改革を両立させながら学校運営を行っていくことは難しい面もあるだろう。</li> <li>・コロナ禍前に実施していた坂戸高校との連携を再開し、特色ある学校づくりを進めてもらいたい。</li> </ul>
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震や火災の発生を想定した避難訓練を行ったので、不審者対応訓練について、3学期や来年度に実施できると良い。</li> <li>・救急搬送やトラブルの際に報告をしても情報の共有がされていないことがあった。マニュアルや緊急連絡体制の実践、スムーズな連携が必要。</li> <li>・組織的に対応するために、管理職も含めた各分掌の話し合いの場を適切に設けていく。</li> <li>・新型コロナウイルス対応について混乱した時があった。</li> <li>・日直の放課後見回りの際、戸締りの甘さが見られた。出勤・退勤時の点検項目を全職員で再確認して、事故を未然に防止する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は児童の下校時対応をよくされている。保護者の資質の低下(家庭教育の他人任せ)がみられ、学校側の対応も大変と感じる。</li> <li>・避難訓練をよくされていると思う。</li> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策のための行事の精選や、保護者アンケート「学校は児童の健康や安心安全に配慮し適切に教育活動を行っている」92.6%の肯定的回答等から、十分な成果がみられる。</li> <li>・教職員同士の雑談を含めたコミュニケーションを十分にし、組織的な対応をお願いしたい。</li> </ul>
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の時間管理として、各提案の持ち時間を決めたが、会議の伸びることがまだ多い。個人の仕事を圧迫しないようにすることが課題である。学年会や各部会での検討を十分に行ってから提案するなどの改善を行う。</li> <li>・管理職からの退勤の声掛けや勤務時間の把握の用紙の配布などはあるが、ノー残業デーの周知は不十分なので、水曜や給料日などに、職員の早い退勤を促す。</li> <li>・担任や校務分掌上の役割分担・仕事量や会議・行事の見直しなどの検討を更に進める。担任・担任外の教員間で仕事の連携が取りやすいシステムづくりを検討する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の方々には、それぞれの生活リズムに即した働き方が求められると思う。</li> <li>・一部の保護者に学校任せの傾向があるので、もっと保護者の協力を得られれば、職員が心身ともに溍溍と仕事ができると思う。</li> <li>・働き方について管理職からの声掛けもあるとのことなので、それでも改善されないなら業務分担の偏りについて見直すことも必要。</li> <li>・先生方の朝残業や休憩時間のメリハリのなさが感じられる。</li> <li>・会議等の進め方として事前に意見や資料の共有を行い、会議時間を最低限にするなどの対応が必要かと思う。</li> <li>・教職員同士の雑談を含めたコミュニケーションを十分にし、教職員が働いて気持ちいい職場環境の実現をお願いしたい。</li> </ul>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。 (市共通項目)	B	・教職員は忙しい中、教材研究に熱心に取り組んでいる。日常の業務があり、教材研究や相談の時間が後回しになってしまうことがある。両立させることが課題。	B	・授業を参観させていただき、授業の進め方に工夫がみられ、現代の子供たちの学びは諸外国に比べ幸せすぎるのではないかと思うほど感謝すべきものだと感じた。 ・学びに対する気持ちの高い子低い子の差が気になる。1コマの授業内で両者のリードもなかなか難しいと思うが、学びへの意欲を高めてもらいたい。 ・この項目は教職員の評価も保護者アンケートの評価も同じく高い。教材研究の時間確保が課題だと思う。 ・保護者アンケート評価結果は前期より後期の評価が上がっている。先生方がとても頑張っていたいただいた結果だ。ありがとうございます。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・日頃から、道徳や特別活動をはじめとするどの授業においても、常に互いのことを思いやる気持ちを大切にするなど、円滑な人間関係づくりやコミュニケーション力の向上に取り組む、豊かな心を育む授業に取り組んでいる。 ・学級・学年や縦割り班活動等の場で、培ったコミュニケーション力やより良い人間関係づくりの力を発揮できるようになってきた。 ・本校の学級会の研究成果で、児童の身に付けた力を他の教科や領域に、さらに広げ、つなげていく。	B	・個々の児童の心に響く言葉や声掛けをしていただき、自分がされて嫌なことは他人にはしないという訓え(指導)を常に行っていくことが重要。 ・いじめ防止のため、具体例をたくさん示し、いじめを見逃さない雰囲気醸成してほしい。 ・これも保護者アンケートの評価が高い項目である。先生方の日頃の指導、ありがとうございます。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取組んでいる。 (市共通項目)	B	・児童の、言葉遣いや挨拶、話を聞くこと、授業態度や職員室入室・廊下歩行のルール(マナー)などに課題があり、引き続き指導が必要である。今後も、教職員の共通理解・共通行動で全学級での指導を行い、また、各教職員がその都度指導していくと同時に、学級担任などと連携して指導する。 ・教職員が児童の手本となるべく、教職員同士の挨拶等も意識して行っていく。	B	・授業風景は全体的に落ち着いている。 ・挨拶については、保護者アンケート結果で非常に低い評価になっている。以前は、先生、保護者、地域で子供たちにしっかり挨拶をし、子供もしっかり返していたと思う。来年度、PTAとともに挨拶の改善に取り組んでもらいたい。 ・挨拶のできる子できない子の差が有る。挨拶は本来家庭教育において育成すべきと考える。学校、家庭、地域の皆で取り組んでいくことが肝心。 ・大人もしっかり使うべき「です」「ます」の大切なことばのご指導に感謝。 ・「学校の言葉遣い」の項目が若干低い。子供たちの言葉遣いにも影響があるのかもしれないので、教職員も言葉遣いに気を付ける。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 (市共通項目)	B	・教職員は意識を高く持ってやっている。 ・職員間での連絡、報告、相談を徹底することで、教職員事故や不祥事根絶することにつながる、という思いで、今後も徹底していく。	A	・教職員は、信頼関係を築かれるところに異動になるため、なかなか力を合わせる時間まで到達できないと思うが、事故や不祥事を防止するには、職員相互の温かい理解と協力が必要だと思う。なんでも話し合える雰囲気づくりが必要。 ・保護者アンケートの「学校の言葉遣い」の項目が若干低いので改善する。 ・子供たちの手本となる先生が多く、片柳小の児童は善悪の区別を自然と身に付けている。また、大きな事故も発生しておらず、素晴らしい環境だと感じた。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	B	・教職員は、個々の児童の特性や課題を的確に把握して、教職員の情報共有・共通理解のもと、個々の児童の状況に応じたきめ細やかな指導・支援を行っている。今後も行っていく。	B	・片柳小は比較的児童数が少ないので、教職員は、学年を問わず、児童一人一人を把握され、対応し、問題が起きると放課後お話しされている姿が見受けられ、努力されていると感じる。 ・教職員がきめ細やかに指導されている。 ・保護者アンケート結果でも、教員と連携がとりやすいと高評価の項目である。日頃の担任の先生の皆様のご尽力に感謝している。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の児童に対し、交流授業の学級でも配慮して指導ができています。</li> <li>・今後、特別支援学級児童の増加により、交流学級での授業を受ける際に付き添う担任又は支援員の不足が生じると、交流授業の実施に支障が出る可能性があるため、その際には支援員の増加を市に要望する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級児童が落ち着いて学習に取り組んでいる様子を参観した。</li> <li>・特別支援学級の児童たちも通学班で皆と一緒に登下校し、交流学級での学習もあり、児童の1年間の成長が著しいと感じている。児童一人一人へのきめ細かい指導の賜物と思う。</li> <li>・特別支援学級のお子さんと通常学級のお子さんとの適切な交流が、両者の心の発達において重要だと思う。今後も継続して進めてもらいたい。</li> <li>・埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園が近くにあり、その生徒が通学で本校の校区内を歩いていることがある。手話であいさつをできるように、交流していただければうれしいです。</li> </ul>
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて、新型コロナウイルス感染防止に取り組み、保護者との連携をもとに家庭の協力を得ながら、感染防止を行った。</li> <li>・日頃から、定期的かつ組織的に施設設備等の安全点検を行い、迅速に修繕を行い、瑕疵による事故を防止した。</li> <li>・備品購入等においては、計画的に予算の運用を図り、デジタル化による消耗品購入の削減に努めた。今後も進めていきたい。</li> <li>・1階の「埋蔵文化財展示室」については、今後の学級増・教室活用の計画をにらみ、学校の教室としての活用が可能となるように市に働きかけていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階の「埋蔵文化財展示室」を片柳小用の教室に活用できるように働きかけ、実現間近になったことをうれしく思う。1年生は1階が望ましいと思っていた。これが実現すれば、保護者アンケート(前期)意見の4階の暑さの件が解消されるのではないだろうか。</li> <li>・保護者アンケートでもよい評価(92.6%)を得られ、また、コロナ対策等でも効果を上げている。新型コロナウイルス感染防止対策なども適切に実施されている。</li> </ul>
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童用タブレット端末のクラスルームを活用し、学級の日々の様子を定期的に伝えていけるとよい。</li> <li>・学校アンケートなど現在紙媒体で実施しているものも電子化することを検討する。(印刷や配布、回収の手間が大幅に削減されるから。)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを使わざるを得ない時代なので、安全に使いこなせるように徹底的に指導し、休んでも学べるよう(学力差を少なくするためにも)活用する。</li> <li>・紙面に残さなければならないものもあるので併用する視点も大切。</li> <li>・グーグルのクラスルームやマメール等の活用で、よく情報を共有している。</li> <li>・タブレット内のクラスルームの使用手法や、保護者が入ってもよい範囲等を保護者に周知する必要を感じた。</li> </ul>
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の登下校においては、スクールガードリーダーや学校応援団長、地域の方々、PTAと連携を図り、安全に登下校できるよう、随時情報交換を行い、必要に応じて、児童への指導や保護者や地域への情報発信を行った。</li> <li>・学校応援団や地域と行う教育活動として、毎週月曜日朝の読み聞かせ、第5学年の米作り体験、第1学年の昔遊びの日体験、第1～3学年のお話しレインボー読み聞かせ体験、第3学年の平和学習や珠算学習、また、消防署見学や浄水場見学などを実施した。</li> <li>・外部講師として、第6学年のがん教育教室や親子ネット安全教室、学校歯科医による歯科保健指導教室を実施する際招聘した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動を行う上で、地域の方々の御協力はとても重要である。また、高齢化が進んでいるので、若手(保護者を含む)の応援を求めたい。</li> <li>・保護者には特に、下校見守りの協力を得たいが、「働いている」ことを理由にできない方が多い。いつの時代もここが難点である。</li> <li>・登下校時の見守りや、体験活動での支援等について、スクールガードリーダーや地域の方々を中心によく連携が取れている。</li> <li>・あいさつの改善には、地域、保護者との連携が重要。PTAとともにあいさつの改善に前向きに取り組んでいただきたい。</li> </ul>
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で計画通りでの実施に難しい面もあったが、年度当初に予定している活動がおおむねできている。(夏季の教職員研修会、2学期の桜中学校教員の小学校授業参観並びに情報交換会、2学期の特別支援学級児童交流会、3月予定の中学校授業体験・部活動見学会など)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大前には、隣接の坂戸高校との交流があり、ダンスレッスンや美術・吹奏楽鑑賞、陸上競技指導等の取組があった。小中連携にとどめず、小高連携も推進できるとよい。今後の再開を望み、児童たちに希望を与えたい。桜中の先生方のご指導もあり、片柳小は幸せな地域に立っていると思う。</li> <li>・学校運営協議会になる前(学校評議員会のとき)には、桜中学校教頭先生が評議員として参加されていた。今年度は中学校関係の委員がいなかったため、状況がわかりにくくなった。中学校の情報を得られるとよい。</li> </ul>